

九州の底力



自動車産業は震災後の落ち込みから驚異的な持ち直しをみせた
(日産自動車九州工場)



農産物の高付加価値化がカギ
(川津食品)



リスク分散を掲げて企業立地
(日特エンジニアリングの進出協定調印式)



エネルギー問題は
産業の方向性を定める
(九州電力玄海原子力発電所)



再生可能エネルギーの実
証実験が進む
(佐賀市内のコンビニで
の電気自動車充電設備)



福岡県はいち早く被災企業
支援に乗り出した



ソーラーアイランド九州を目指す
(国際航空業ホールディングス都農第2発電所)

東日本大震災被災者緊急就職相談窓口

未曾有の災害により、「想定内」という言葉で表現された安心の根拠は問い直されている。緊急時事業継続計画(BCP)策定など、防災体制の再検討、再構築はすべての企業にとって課題だ。同時にそこには新たなビジネスチャンスも埋まっている。震災直後から傾向的に見られたのが、西日本シフトだ。本社機能移転のほか、

九州経済産業局は7月7日、5月の九州経済基調判断を発表。一部弱含んでいるものの持ち直しの動きがみられると、2010年12月以来5カ月ぶりに上方修正した。鉱工業生産指数も今年4月以降回復が続く。基幹の自動車産業は、前月比5.8%増と05年基準で最大の上昇幅を記録した。

中小企業のリスク分散という点では、豊富な農林水産資源の付加価値化も柱になる。機能性食品や健康食品、医薬品分野への応用を目指す産学官が取り組む。積極的なのは食品メーカーだけでなく、工業系メーカーがバイオ分野に進出するなど、6次産業化や新分野進出の動きは活発だ。医薬品だけでなく精密技術を生かした加工連携の取り組みも目立つ。

3月11日に発生した東日本大震災は、震源地から遠く離れた九州・山口経済にも影響を与えた。被災地に拠点を持つ企業をはじめ、サプライチェーン寸断により、企業活動は各所で二次被害を受けた。一方で多くの中小企業が被災企業支援に声を上げ、立ち上がった。被災地からの代替受注受け入れや、機材の貸し出しを申し出た企業は少なくない。どの企業も自社の利益を度外視し、睡眠時間を削って取り組む姿勢が見えた。経営者の口からそう出てきた言葉は「できることをする」だ。自治体も被災企業受け入れをいち早く表明。地域全体を挙げて、離れているからこそ支えようという機運が高まった。九州にいま求められるのは、この全国を支え、けん引する役割にほかならない。

製造業でリスク分散を理由に挙げた生産拠地の立地も見られる。自治体も流れに倅差をうと、条例改正で企業ニーズにより近い支援メニューを打ち出すなど、企業誘致が積極化している。東京電力福島第一原子力発電所の事故は、電源確保の課題とともに産業の方向性も位置付けた。九州の住宅用太陽光発電システム普及率(09年12月時点)はトップクラスだ。同普及率3.3%で全国1位の佐賀県を筆頭に、2位熊本県、3位宮崎県、5位長崎県と続く。九州全7県が上位14位に入っている。

今こそ成長のエンジン役に

九州・山口は域内のみならず、日本全体としてアジアも見据えた成長のエンジンとして、経済をリードすべきだ。その動きは困難によって意識が高まり、方向性も具体化したのではない。日本の将来像を見据え、先頭を走る九州の姿を見ていこう。

また次世代型の薄膜系太陽電池関連メーカーも集積する。高まるニーズに合わせ、産業集積化に期待が集まる。水素やバイオマスなど再生可能エネルギーの取り組みも各地で進む。節電ビジネスも注目すべき分野だ。

福岡県は「シリコンシーベルト福岡プロジェクト」の一環として、既設のLSI設計開発の拠点「先端半導体設計センター」に加え、実装・試作の研究開発拠点となる「三次元半導体研究センター」及び実証実験支援拠点「社会システム実証センター」をこの度開所。これにより先端半導体の設計から実装・試作、実証実験・評価までを総合的に支援する拠点を完備しました。

INDEX

- 28 29 座談会
- 30 産業用地
- 31 自動車・半導体など
- 32 エネルギー・環境
- 33 防災・危機管理
- 34 食品・バイオ
- 35 医療・健康
- 36 北九州
- 37 魅力ある製品・技術

世界をリードする先端半導体開発拠点を實現



半導体設計作業の集積
設計開発



先端半導体設計センター



クリーンルーム作業風景
実装



三次元半導体研究センター



実証

ICカード実証実験風景



社会システム実証センター

福岡県

— 先端半導体の設計から実装・試作、実証実験・評価までを一貫支援 —

福岡県は「シリコンシーベルト福岡プロジェクト」の一環として、既設のLSI設計開発の拠点「先端半導体設計センター」に加え、実装・試作の研究開発拠点となる「三次元半導体研究センター」及び実証実験支援拠点「社会システム実証センター」をこの度開所。これにより先端半導体の設計から実装・試作、実証実験・評価までを総合的に支援する拠点を完備しました。

先端半導体設計センター

最先端のシステムLSI設計環境の提供、人材育成、研究開発、事業展開までを総合的に支援する半導体中小・ベンチャー専門インキュベーション施設

- システムLSI設計の設計ツール完備
- システムLSI設計者、組込ソフト技術者の養成
- 代表的LSIテスト機器を安価で提供 等

三次元半導体研究センター

半導体関連製品の高密度化を図るため、複数の半導体チップを三次元に積層するために必要な研究開発、試作・評価を支援する、実装機器類、評価機器類を整備した拠点施設

- 部品内蔵基板試作ライン
- 高密度実装対応(クラス1000クリーンルーム)
- 実装機器及び評価機器
- 高度分析・評価機器と分析用サンプル加工 等

社会システム実証センター

将来必要とされる新しい社会システムとそれを支える先端半導体の開発・製品化を促進するため、開発した半導体製品の実際環境下での実証実験や、評価・改良を行う設備・ノウハウを提供する拠点施設

- 先端的基礎技術分野の実証実験設備
- 試作品・開発品の評価・解析機器
- 実証実験データ蓄積・解析用サーバ
- 企業等の実証実験実施の支援 等

お問い合わせ先

福岡県商工部 新産業プロジェクト室 **092-643-3445**

(財)福岡県産業・科学技術振興財団

○先端半導体設計センター **092-831-7151** <http://www.ist.or.jp/lsi/>

○三次元半導体研究センター・社会システム実証センター **092-331-8510** <http://jiss.ist.or.jp>

福岡県庁ホームページ <http://www.pref.fukuoka.lg.jp>

シリコンシーベルト福岡プロジェクト

福岡県では、福岡、北九州地域における大学等の頭脳資源や半導体関連企業の集積、及び自動車産業の集積等地域ポテンシャルを最大限に活用し、世界最大の半導体産業消費地に成長したシリコンシーベルト地域(韓国、九州、上海、台湾、シンガポール等を結ぶ地域)の核となる、世界レベルの先端半導体開発拠点の構築を目指します。

【主な取組み】

研究開発支援

- 国・プロ等の中核研究開発プロジェクトの実施
- 多様な外部資金の活用

交流・連携

- シリコンシーベルトサミット福岡の開催
- 国内外の機関との交流・連携

人材育成

- 福岡システムLSIカレッジによる半導体技術者の養成
- 域内大学の連携強化

ベンチャー育成・支援

- 先端の設計ツールを低料金で開放
- インキュベーション事業等の実施